

[プロ・ショップ・レポート (特別編)]

## 布川俊樹が 世界最大規模の ギブソン取り扱い店に潜入！

東京都千代田区神田小川町3-8

Tel : 03-3295-2800

Mail : g-club@kuosawagakki.com

営業時間 : 11:00~20:00

取材・文 : 山中弘行

Text by Hiroyuki Yamanaka

写真 : ジョン・チーズバーガー

Photo by John Cheeseburger

# G-CLUB TOKYO

東京には、渋谷、新宿、池袋をはじめ“楽器の街”と呼ばれる場所が幾つかある。その中にあって“お茶の水”は特別な存在。駿河台下交差点の一角に燐然と煌めくギブソンの看板が目印のG-CLUB TOKYO。今回、副店長でもある株式会社黒澤楽器店の藤川忠宏さんに案内役をお願いし、この“ギブソンの聖地”に布川俊樹が潜入。そこで布川が目にしたものとは!?

### 初レスポール体験

布川：いやあ、楽器店に来るのは久し振りですね。とても楽しみです。こんにちは！

藤川：いらっしゃいませ！

布川：お邪魔します！ 表の大きな看板を見て既にわくわくしています。よろしくお願ひします。

藤川：ありがとうございます。じゃあ、1階からご案内させて頂きます。こちらは初心者

向けギター、エピフォン、フェンダー・ジャパンや小物などを中心にしたフロアです。

布川：あ、シェクターのギターやフェンダー系のベースなどもありますね。

藤川：はい。Casinoやギルドのソリッド他、結構珍しいものもありますよ！ では2階へどうぞ。

布川：おお、このフロアは、Les Paulだけ！

藤川：はい。現在ギブソン社はナッシュビルに大小2つの工場を持っていますが、このフロアの手前にある方が、大きい方の工場で作られる量産タイプのLes PaulやSGなどで、



▲マーシャルに繋いでLes Paulを弾き捲る！

奥の壁面に飾ってあるのが、小さい方の工場で作られる“カスタム・ショップ”と称されるラインナップです。どさくさに紛れて、ヴィンテージのフェンダーStratocasterも飾ってありますが（笑）。

布川：はあ、そうなんですか……。



▲1F。比較的安価なモデルをはじめ、多種多様な小物が揃っている。

▲2F。Les Paul、SG、Flying Vまで！ソリッドはこのフロア。



▲ “Swing Street Cafe” のヴィンテージ・ギターに見入る。

▲ 3F。これだけES-335が沢山揃っている楽器店は他にないのでは!?

に弾き捲る) お、音の抜けが違う!

## セミアコ、フルアコ、アコギ堪能

布川：Les Paulは面白いね！ 道下和彦氏も渡辺香津美さんも使ってるし、フラットワウンド弦張ってジャズやってる人もいるかなあ……。あ、ここは何ですか？

藤川：はい、こちら3階はセミアコ、フルアコの高級機を集めたフロアです。

布川：凄いなあ！ こんなに沢山のチェリー色のES-335を一度に目にしたことないな！ まるで“水族館”か“楽器フェア”みたい(笑)。なんか天井からプレートがぶら下がってますが、面白いですね。

藤川：あ、これは遊び心なんです。フルアコ

ターもグレコの35,000円くらいのセミアコで、それでウェス・モンゴメリーのコピー・バンドをやっていたくらいですから！ この小振りなセミアコは？

藤川：こちらはCS-336というモデルで、トップはメイプルですが、バックはマホガニー材を割り抜いてセミホロウ構造にしたものです。

布川：いろいろありますね。ところで4階もあるんですか？

藤川：はい。では行ってみましょう。

布川：ここは、フラットトップばかりですね！

藤川：そうです。ここにはギブソンを中心としたスティール弦フラットトップを取り揃えています。

布川：J-45、Dove、Hummingbird……。ん、この小振りなギターは？

藤川：これはギブソンのKeb 'Mo' (リー・リトナーの『6 String Theory』にも参加しているブルース・ギタリスト) モデルなんです。彼のことを知らない方にも人気があります(笑)。ぜひ弾いてみてください。

布川：これも小さなボディで弾きやすいですね！

藤川：では、こちらの'65年製のJ-45はいかがですか？

布川：(ジャラーンと鳴らして) お、これは気持ち良い！ なんとも豊潤な音色がしますね。ソリッドもセミアコもそうだけど、こういうちょっと薄くて細めのネックが好きだな……。

藤川：こちらの新品のJ-45もどうぞ。

布川：(ジャラーン) あ、全然違う！ 鳴りが若い！ (と試奏は続いた)



▲4F。ギブソンのスティール弦フラットトップを中心としたアコギがズラリ！

の壁面は“Swing Street Cafe”、ES-175の壁面は“Route 175”、チェリーの335の壁面は“Cross Road”、サンバーストの335の壁面は“King Of Blues Guitars”とか(笑)。

布川：お、“Swing Street Cafe”には、ES-150でP-90のモデルもあるし、Johnny Smith、Byrdland……、ヘリテージまでありますね。ES-175もこれだけ一気に目に入ると凄い迫力ですね。弾いてみたいなあ(笑)。藤川：布川さんはセミアコがお好きだと伺っておりますが。

布川：ははは。フュージョン世代ですし、ジョン・スコフィールド師匠もそうですし(笑)。何と言っても、ジャズをやるにも、少々歪ませるにしてもオールマイティなどころが魅力ですね。初めて買ったエレキ・ギ



各フロアを親切丁寧に案内してくれた株式会社黒澤楽器店の藤川忠宏氏。年に何度も渡米して、ギブソンの工場を視察したり、直接オーダーなども行っているというだけあって、同社の製作工程等にも詳しい。

藤川：私が'09年にナッシュビルを訪問したとき、たまたまヴィンテージのLes Paulがあったのですが、イーグルスのドン・フェルダーが使用していたギターだったんです。実はコンピュータによる解析で、採寸からネジ位置など全ての情報に基づいて、まさに“クローン”を作る技術が急速に進歩していまして、ちょうどそのギターを解析するところを見ることが出来たんです。ゲイリー・ムーアのモデルを再現したものもありますよ。どれか弾いてみてください。

布川：え、ギブソンLes Paulは弾いたことないですよ！ でも、レッド・ツェッペリンも好きだったし、せっかくだから(笑)。

藤川：じゃあ、マーシャル・アンプで鳴らして見てください。

布川：(ハード・ロック・フレーズを弾く) これはレスポンスも素晴らしい気持ち良いね！ (と言いながら、セーターを脱ぎ、本腰を入れて弾き捲る)

藤川：これらは現地の工場に行って、木材から選んで、仕様やカラーまでオーダーしているんですよ。だから1本1本異なりますし、音色の違いにもこだわりを出しています。

布川：イメージしていたより軽いですね！

藤川：ソリッド材ですが、一頃より軽量になっていますから、4Kgに満たないものが多いです。

布川：弾きやすい……。

藤川：これはカスタム・ショップ製Historic Collection “1959 Reissue”で、このラインナップは20年前からあるのですが、'09年モデルから先ほどお話した新たな技術が採用されています。こちらには、わざとクラックを入れた“エイジド・モデル”もありますが、クラックによってトップの表面積が変わることで音も変わるんです。

布川：ほー。じゃ、それも弾いてみていいですか？ (と探究心が深まり、更に少年のよう

気になるギターを試奏チェック！

TOSHIKI'S IMPRESSION

TOKYO

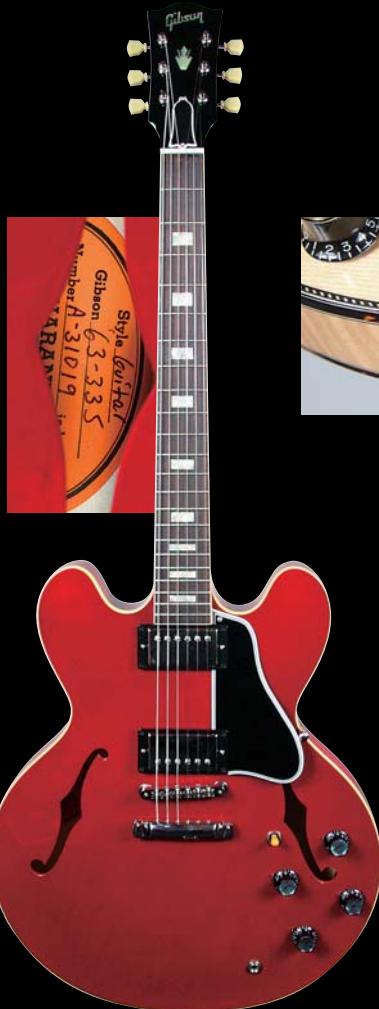
GC CLUB



### Gibson Custom

(ギブソン・カスタム)

Historic Collection 1963 ES-335  
Block Reissue



### Seventy Seven

(セヴンティ・セブン)

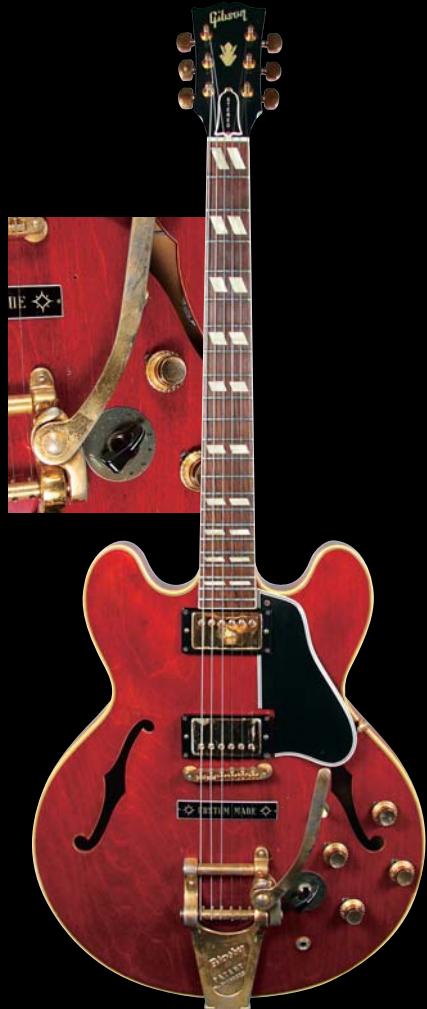
EXRUBATO JAZZ-H



### Gibson

(ギブソン)

ES-345 (Early '60s)



ギブソン社の最新技術を用いて'63年のES-335を再現したというだけあって、ネックの感じは当時の薄めで弾きやすいですね。生音の段階でのサスティーンやバランスも良い。アンプを通して同じ感じの音がします。フロントPUは音の立ち上がりも良いし、リアPUもしっかりした音で、どちらも低音部がファット過ぎない。ヴィンテージでこの年代のものはとんでもない価格なので、これだけの仕上がりの良さで80万円前後と言う価格には納得です。幅広い音楽に対応出来ますよ。

ES-335とはほぼ同じボディ・サイズですが、軽い。と思ったらフルアコ構造でした。トップがスブルースで、サイドとバックがメイプル、ネックは5Pのメイプルと言うことで、仕様としてはアーチトップ・ギターの代表的なものと同じですね。フレットがとても滑らかで弾きやすい！ シャキっとしたフルアコのサウンドですね。各弦の鳴りのバランスも良いのでコードが美しく響きます。作り込みの素晴らしいは“さすが日本製”と言った感じ。べつ甲柄と細かい細工を合わせたバインディングが美しいです。

'62~'63年製のヴィンテージだけあって、チェリー・カラーの退色具合が素敵ですね。ステレオ仕様なので、ステレオ・ケーブルを使うとフロントとリアのピックアップを別々に出力出来ます。バリトーン・スイッチは1~6まであって、1から段々とローがカットされるようなサウンドに変化するので、太い音から、Telecasterに近いような鋭い音まで、ハムバッカーの特性を残したまま鳴らせるのが面白いですね。ビグスピーカー・トレモロが付いているので口カビリーピッピーリックスですが、まさに枯れたブルースの音色は味わい深い。

## Gibson Custom

(ギブソン・カスタム)

Pat Martino Custom



## Gibson Custom

(ギブソン・カスタム)

Historic Collection Byrdland  
Antique Burgundy



## Gibson

(ギブソン)

ES-175D (Early '60s)



昨年の来日時に洗足音楽大学でクリニックを開催してくれたパット・マルティーノ氏。とても紳士的で素晴らしい方でした。まさにこのギターは彼の音色がしますね！ 試奏すると思わずマルティーノ・フレーズが（笑）。フィガード・メイプル・トップで、ボディはマホガニーを割り抜いてセミ・ホロウ構造にしたモデルなので、思ったより軽量だけど、ソリッドに近い印象のサウンド。ピックアップは57 Classicのことですが、他ギターに搭載したものよりパワーを感じます。中低音域がよく鳴りますね。

藤川氏によると、ギブソン社が古くから使っている大きなマシンで、当時のテンプレートを使用して作っているラインで製作されたというこのギター。実は某世界的有名ギタリストがギブソン社にオーダーしたものと同じ仕様で作ってもらったという裏話も興味深い。ByrdlandなのにL-5と同じスケールのネックという“L-5T”のような珍しいモデルです。011のラウンド弦張っている状態で完璧なジャズ・ギターの音！ 太めのフレットはギブソンのフルアコならでは。色も良いし、思わず親指で弾きたくなりますね！

実は私もES-175Dを持っていて、CD付き教則本『決定版！ ジャズ・ギターの金字塔』の中でも弾いているんです。ボディ・サイズが16インチと小振りなので弾きやすいですね。今日弾かせてもらうのは64年製ということです。まさにヴィンテージ！ “ド渋”ですね！ 歳月を経た枯れた感じの音はモダン・ジャズそのものです。ウォリュームを絞るとアコースティックな鳴りが増して、とても気持ち良い。米国で見付けて、このお店で調整されたようですが、程度も良くて、フレット他の状態もとても良いですよ。

### まずは試奏してみること

プロになって以降、エンドースメント契約をしているメーカー、決まった製作家の方が私のギターの面倒を見てくれるので、普段ふらっと街の楽器屋を訪れることがないんですね。それだけにギターの数の多さにまず圧倒されましたね！ しかも高級な機種や珍しいものまであるわけですから衝撃ですよ。最近、スティール弦フラットトップでジャズを弾くのも好きなんで、ギブソンのフ

ラットトップの品揃えが豊富なので嬉しいですね。

実は2月にピアノの福田重男氏とデュオでレコーディングしたんですが（今夏リリース予定）、何曲かでスティール弦フラットトップも使っています。

お店の雰囲気もスタッフの方の対応や知識の深さも素晴らしいで居心地が良いので、ゆっくり試奏しながらギターを選べます。ギターテックも常駐していて、メンテナンスまで行ってくれるのもギタリストにとって心強い。ギターの購入を検討しているなら、まずは来店して試奏してみてくださいね！

